



今週の T2 経済レポート

2021年1月29日号

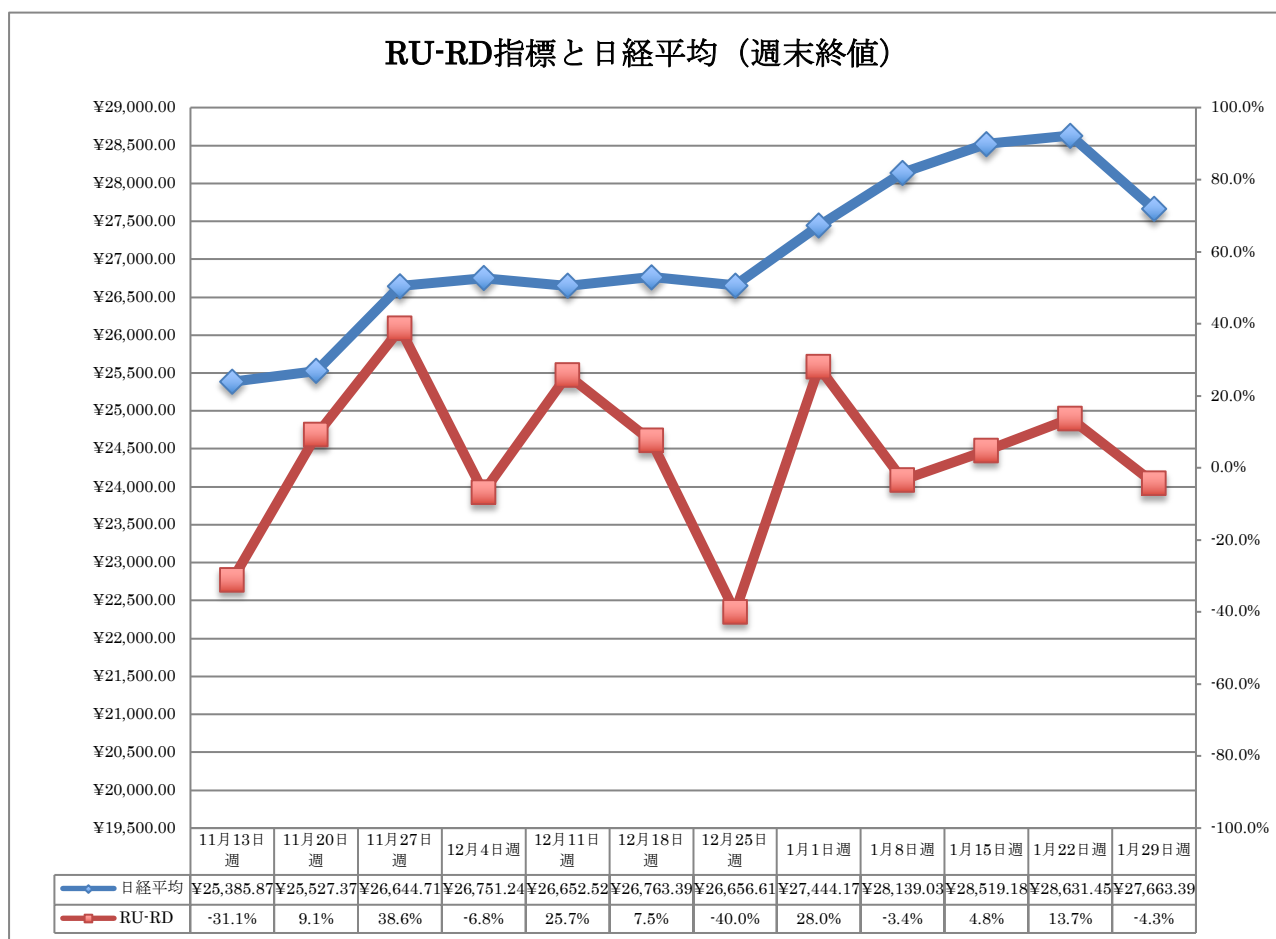
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は急落調整に警戒が必要な週となりそうです。今週(1/25~1/29)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月15日週は-4.3%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことから急落調整に警戒が必要な週となります。さらに、来週(2/1~2/5)の相場を占う1月22日週は-11.4%と2週連続のマイナス圏に陥っていることから軟調な相場が継続しそうです。2週連続でマイナス圏に陥るのは昨年10月12日週~19日週以来、約3ヶ月振り。今週、予告通りに急落するようですと年末年始の急騰劇が一巡したことを示すシグナルの点灯となりますので要注目です。先週、20日に大統領就任式が無事通過したのですが、兵士が3万人以上集まる異常な状態、さらに「ライブ中継の天気は20日と異なるのでは？」などの声も多く、本当にバイデン政権が正式なかたちで発足したのかが注目されるどころです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%と24週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%に続く、3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、来週以降も上限ゾーン突破を継続するかたちで天井形成を示唆するかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、28日に12月百貨店・スーパー販売額、12月小売業販売額、29日に12月失業率、12月有効求人倍率、12月鉱工業生産指数、一方、海外では、25日に独1月Ifo景況感指数、26日に米1月消費者信頼感指数、27日に米12月耐久財受注、28日に米10-12月期GDP速報値、米12月新築住宅販売、29日に米12月個人支出・個人所得、などが予定され

ています。1月28日発表の米10-12月期国内総生産(GDP)速報値は7-9月期に33.4%増と過去最大の伸びを示したのち、成長率は4.8%へ鈍化する見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は29日に日銀金融政策決定会合の主な意見(1月20-21日開催分)公表、一方、海外では、26日に米FOMC(27日まで)、27日にパウエルFRB議長会見、などが予定されています。1月26-27日開催のFOMC会合で市場では現行の大規模な金融緩和政策を維持すると見込んでいますが、注目は昨年末に決定した追加経済対策の資金供給策をどのようなかたちで供給するのか注目されます。」とコメントしました。



| 1月8日週 | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 |
|------------|------------|------------|------------|
| ¥28,139.03 | ¥28,519.18 | ¥28,631.45 | ¥27,663.39 |
| -3.4% | 4.8% | 13.7% | -4.3% |

先週の日経平均は、高値 28822 円(1月25日)・安値 27629 円(1月29日)と推移、5週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、バイデン政権が提示した約2兆ドル規模の追加経済対策を巡る先行き不透明感や米製薬会社のメルクがコロナワクチンの開発を打ち切ったことによるワクチン普及の遅れへの警戒、さらに米市場で短期の投機取引が加速しVIX指数が前日比60%超に急騰したことで警戒感が広がり、米連邦公開市場委員会(FOMC)でパウエル米連邦準備制度理

事会 (FRB) 議長が当面緩和策を解消する意向がないことを表明したもののサポートラインであった 25 日移動平均線 (27,892.33 円) を大きく割り込んで下値目標値を下回り、週間ベースで -968 円安と 5 週間振りの大幅安で年末年始を含めここ 4 週間で +1975 円急騰した分の半分を帳消しにして終了しています (先週予告していた上値メド 29503 円 ~ 30093 円 (+2%かい離) // 下値メド 28357 円 ~ 27789 円 (-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えて、1 月 18 日までに 29000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29000 円大台替えて仕切り直し、逆に、27500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、1 月 18 日までに 29000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30000 円大台替えて仕切り直し、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、1 月に 28000 円大台替えて仕切り直しが入りました。29000 円大台替えてカウントダウンの上昇局面、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期↑となり、長期はまだ強含みですが、短中期は方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 31121 ドル (1 月 26 日)・安値 29856 ドル (1 月 29 日) と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、1 月 26-27 日開催の米連邦公開市場委員会 (FOMC) の会合で金融政策の現状維持が予想通り決定されましたが、SNS で結集した素人個人投資家がゲームストップ株を買い上げてヘッジファンドが救済資金を受ける事態に追い込み、1998 年に起きた大手ヘッジファンド LTCM の実質破綻が巻き起こした金融危機のようなシステムリスクが警戒され VIX 指数も高止まりして下値目標値を下回り、週間ベースでは -1009 ドル安と前の週と異なり大幅下落、節目の 3 万ドルを 20 年 12 月 14 日以来、1 カ月半ぶり下回って終了しています (先週予告していた上値メド 31759 ドル ~ 32394 ドル (+2%かい離) // 下値メド 30777 ドル ~ 30161 ドル (-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えて、時間切れとなっていました。1 月 29 日に 30000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。29500 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、30500 ドル大台替えて仕切り直しが入ります。中期の方向を示す月ベースでは、1 月 6 日に 31000 ドル大台替えて仕切り直しが入りましたが、逆に、1 月 29 日に 30000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。29000 ドル大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、31000 ドル大台替えて仕切り直しが入ります。長期の方向を示す月ベースでは、1 月に 31000 ドル大台替えて仕切り直しが入りましたが、逆に、1 月に 30000 ドル大台割れで下落スタートとなりました。これで短期↓、中期↓、長期↓、となり、短中長期全てが弱含みとなり、下落しやすいかたちに変化しました。

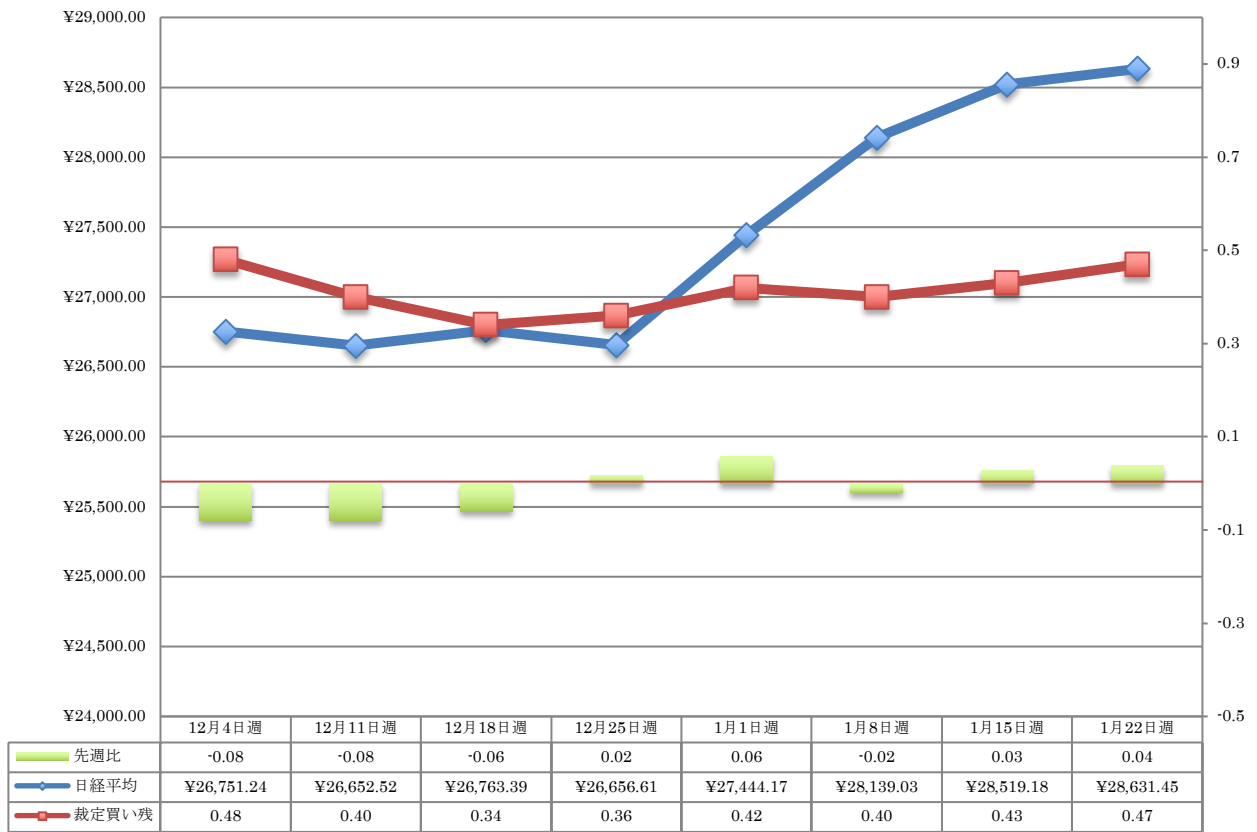
一方、為替は、ドル・円が 104.94 円 ~ 103.54 円 (先週予告していた上値メド 104.58 円 ~ 105.62 円 (+1%かい離) // 下値メド 103.41 円 ~ 102.37 円 (-1%かい離)) と推移、上値目標値を達成し、実質 5 週連続の円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.2183 ~ 1.2056 (先週予告していた上値メド 1.2136 ~ 1.2257 (+1%かい離) // 下値メド 1.1984 ~ 1.1864 (-1%かい離)) と推移し、上値目標値を達成し、3

週間振りにドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、127.33 円～125.56 円(先週予告していた上値メド 126.15 円～127.41 円(+1%かい離)//下値メド 124.68 円～123.43 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、3 週間振りに円安・ユーロ高。前の週のドル>円>ユーロからユーロ>ドル>円に変化し、ユーロ売りが3 週間振り一旦、縮小したかたちです。ラガルド ECB 総裁は「ユーロ圏経済は昨年 10-12 月期に恐らく縮小しており、今年 1-3 月期にも影響は及ぶ可能性がある」との見方を示しリスク回避的なユーロ売りが継続しているものの、1-3 月期におけるマイナス成長は想定内との見方も多いことからユーロ売りが限定的となったかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

2 週連続で増加。昨年 3 月 23 日週に 1 月以来となる 7000 億円台に回復後、反動減がまだ続いている状況です。一方、「裁定売り残」は、前の週比-617 億円の 1 兆 3098 億円と、前の週と異なり減少。昨年 11 月 30 日週に 1 週だけ増加したものの前の週まで実質 9 週間で 7983 億円減少と買い戻しが起きて、日経平均が 30 年振りに 28000 円大台を回復した牽引役の一つとなっていました。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

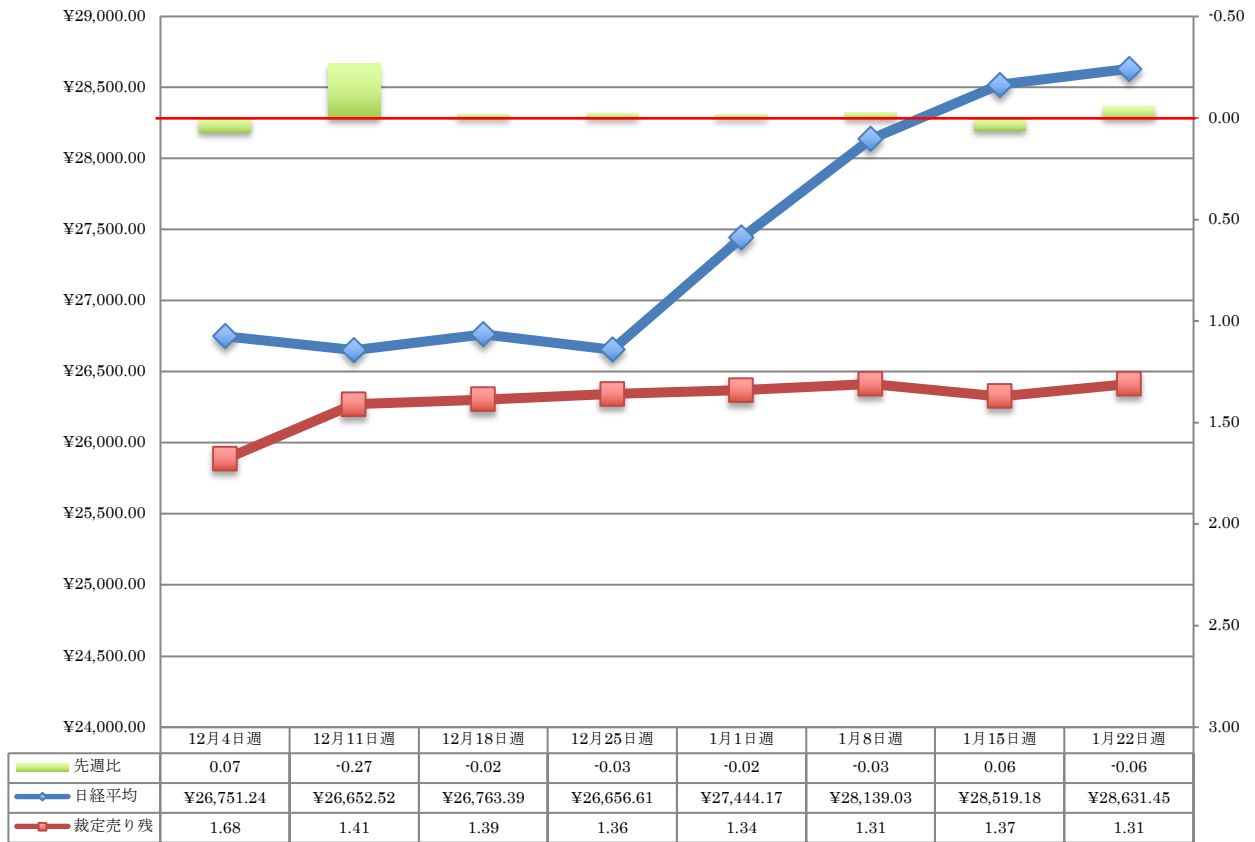
裁定買い残と先週比



| | 1月1日週 | 1月8日週 | 1月15日週 | 1月22日週 |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 日経平均 | ¥27,444.17 | ¥28,139.03 | ¥28,519.18 | ¥28,631.45 |
| 裁定買い残 | 0.42 | 0.4 | 0.43 | 0.47 |
| 先週比 | 0.06 | -0.02 | 0.03 | 0.04 |

単位:兆円

裁定売り残と先週比



| | 1月1日週 | 1月8日週 | 1月15日週 | 1月22日週 |
|-------|------------|------------|------------|------------|
| 日経平均 | ¥27,444.17 | ¥28,139.03 | ¥28,519.18 | ¥28,631.45 |
| 裁定売り残 | 1.34 | 1.31 | 1.37 | 1.31 |
| 先週比 | -0.02 | -0.03 | 0.06 | -0.06 |

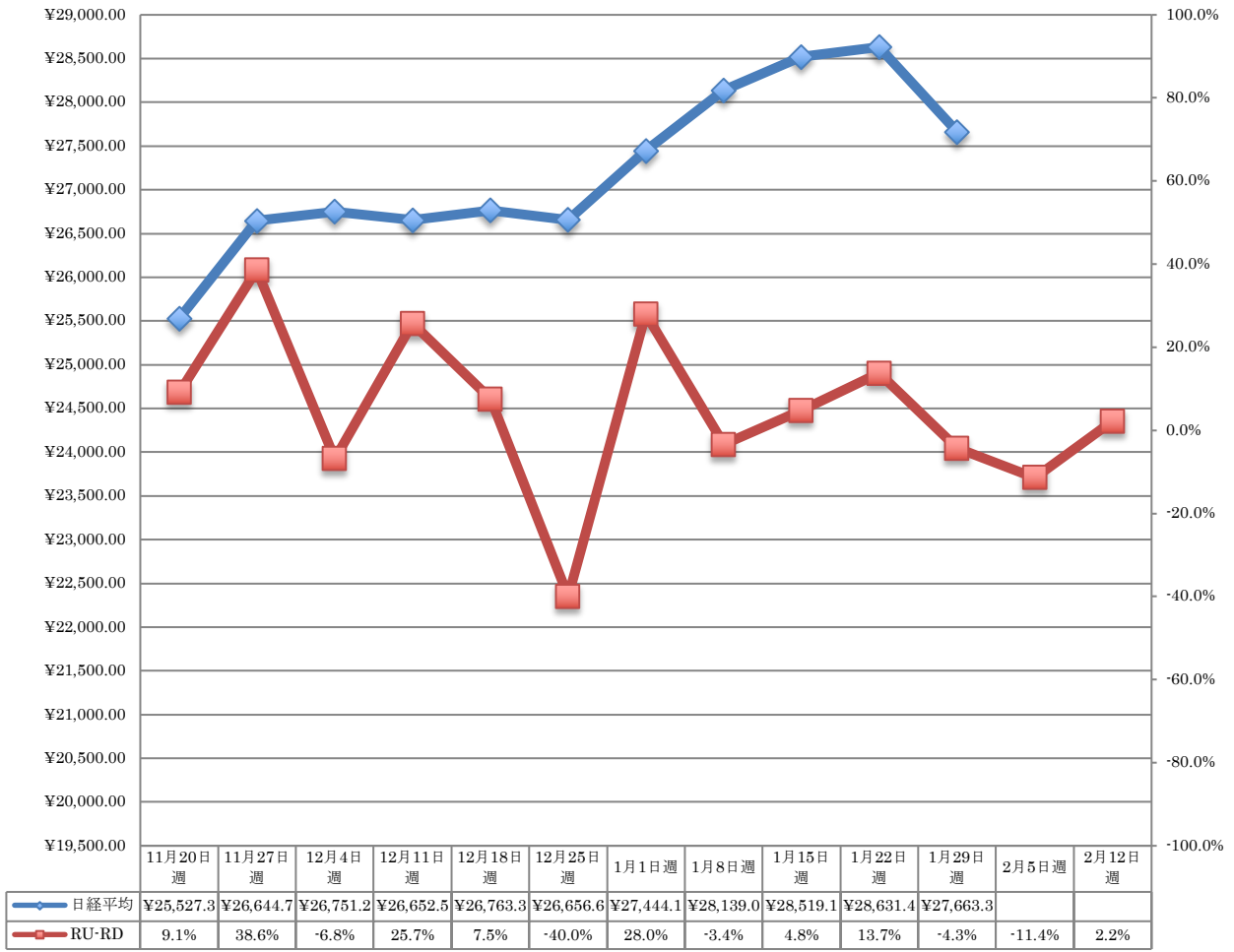
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は軟調相場が継続しそうな週となりそうです。今週(2/1~2/5)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月22日週は-11.4%と2週連続のマイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続しそうです。先週、「2週連続でマイナス圏に陥るのは昨年10月12日週~19日週以来、約3ヶ月振り。今週、予告通りに急落するようですと年末年始の急騰劇が一巡したことを示すシグナルの点灯となりますので要注目です。」と指摘しましたが、約1000円幅の急落調整で2週間振りの28000円割れ、これで年末年始の急騰劇が一巡したかたちです。ただ、来週(2/8~2/12)の相場を占う1月29日週は+2.2%と僅かながら3週間振りにプラス圏に浮上したことで急反発の可能性があります。来週末12日はミニSQを控えるため投機筋の外国人がこのままの低い株価でSQ値を確定させるのか、それとも少しでも反発させるのかが注目される週となりそうです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+7.1%→11月20日週+30.0%→11月27日週+25.7%→12月4日週+35.7%→12月11日週+34.3%→12月18日週+15.7%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%と25週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%、1月22日週+40.0%に3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、今週の急落調整局面が継続するのか、もしくは再度、上限ゾーンを継続して突破するような上昇局面が近未来に表れるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、2月1日に1月新車販売台数、2日に1月マネタリーベース、5日に12月家計調査、12月景気動向指数、一方、海外では、1日に中国1月財新製造業PMI、米12月建設支出、米1月ISM製造業景気指数、3日に米1月ADP全米雇用リポート、米1月ISM非製造業指数、4日に米12月製造業受注、5日に米1月雇用統計、米12月貿易収支などが予定されています。2月1日発表予定の米1月ISM製造業景況指数は60.0と、12月の60.7をやや下回る見通し。また2月5日発表予定の1月雇用統計は失業率6.7%(12月は6.7%)、非農業部門雇用者数は前月比+5.0万人(同-14.0万人)、平均時給は前年比+5.1%(同+5.1%)、と雇用者数が12月に減少した反動で小幅な増加となる見通しですが、予想通り増加回復できるかどうか注目したいところです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



| | | | |
|------------|------------|---------|--------|
| 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 | 2月12日週 |
| ¥28,631.45 | ¥27,663.39 | | |
| 13.70% | -4.30% | -11.40% | 2.20% |

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 28697 円～29270 円 (+2%かい離)

下値メド 27794 円～27238 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 30817 ドル～31433 ドル (+2%かい離)

下値メド 30313 ドル～29706 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 104.53 円～105.57 円 (+1%かい離)

下値メド 103.73 円～102.69 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2177～1.2298 (+1%かい離)

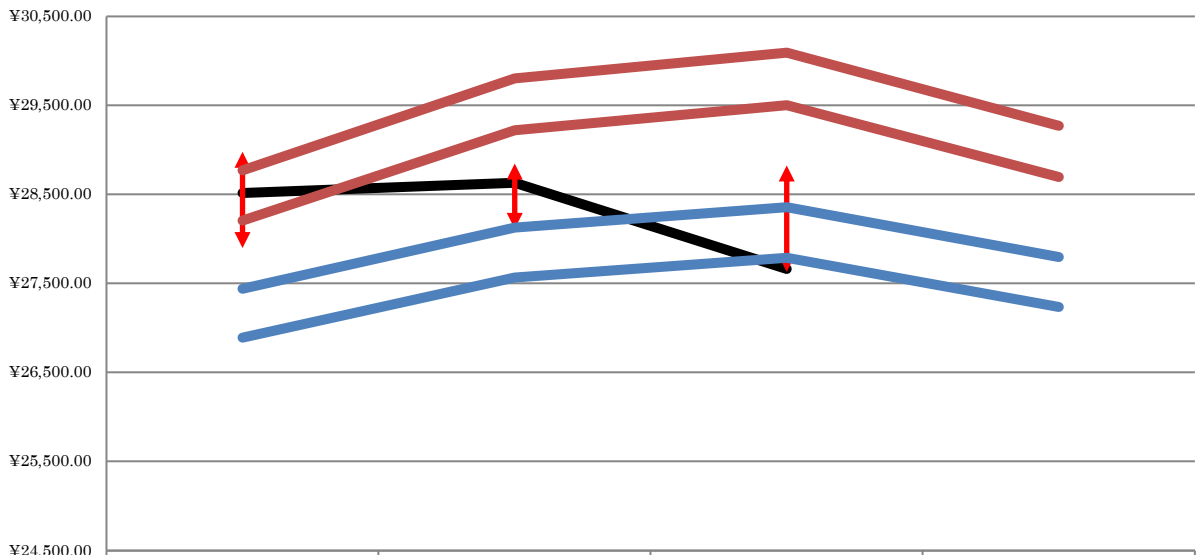
下値メド 1.2035～1.1914 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メド 126.97 円～128.23 円 (+1%かい離)

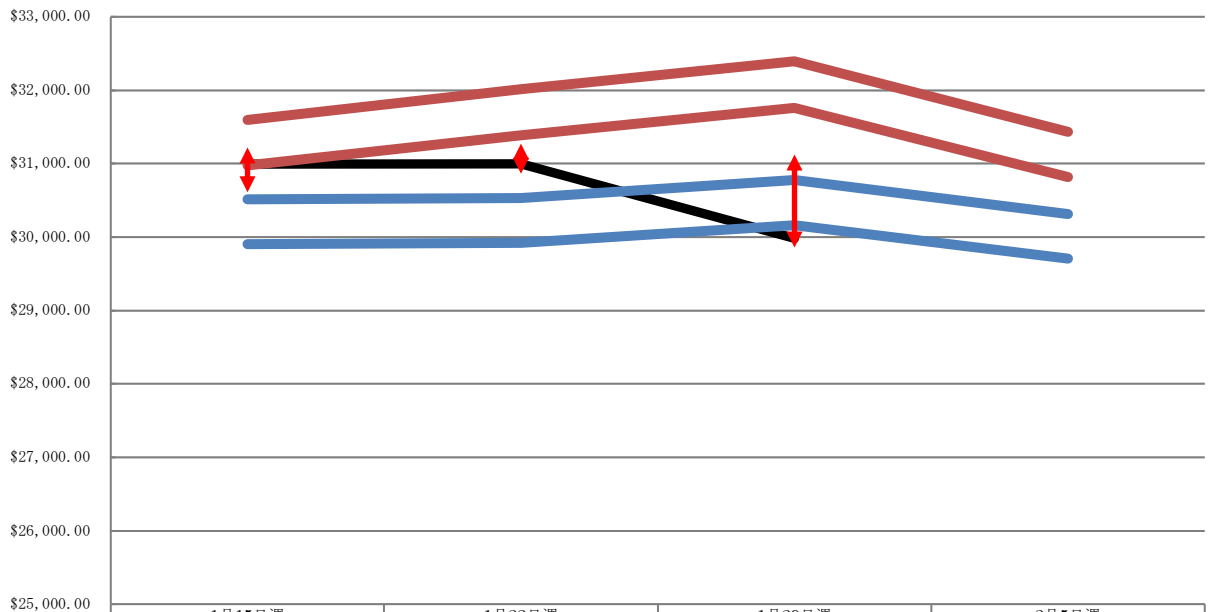
下値メド 125.54 円～124.28 円 (-1%かい離)

日経平均



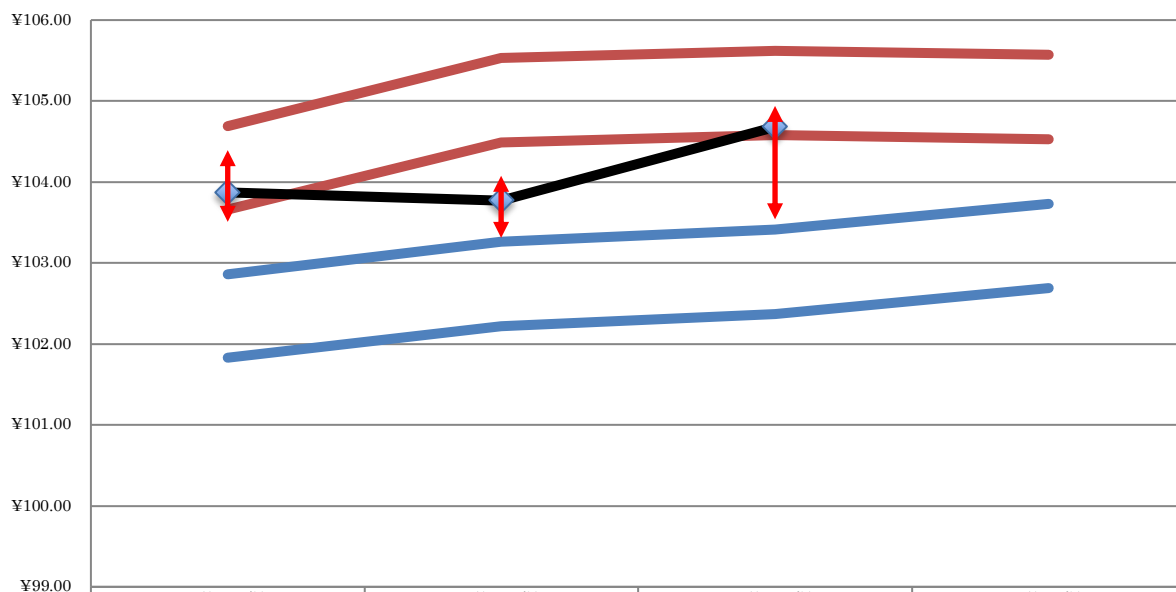
| | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 |
|--------|------------|------------|------------|---------|
| — 日経平均 | ¥28,519.18 | ¥28,631.45 | ¥27,663.39 | |
| — 高値 | ¥28,979.53 | ¥28,846.15 | ¥28,822.29 | |
| — 安値 | ¥27,899.45 | ¥28,111.54 | ¥27,629.80 | |
| — 上値 上 | ¥28,771 | ¥29,803 | ¥30,093 | ¥29,270 |
| — 上値 下 | ¥28,207 | ¥29,219 | ¥29,503 | ¥28,697 |
| — 下値 上 | ¥27,441 | ¥28,130 | ¥28,357 | ¥27,794 |
| — 下値 下 | ¥26,892 | ¥27,567 | ¥27,789 | ¥27,238 |

NYダウ



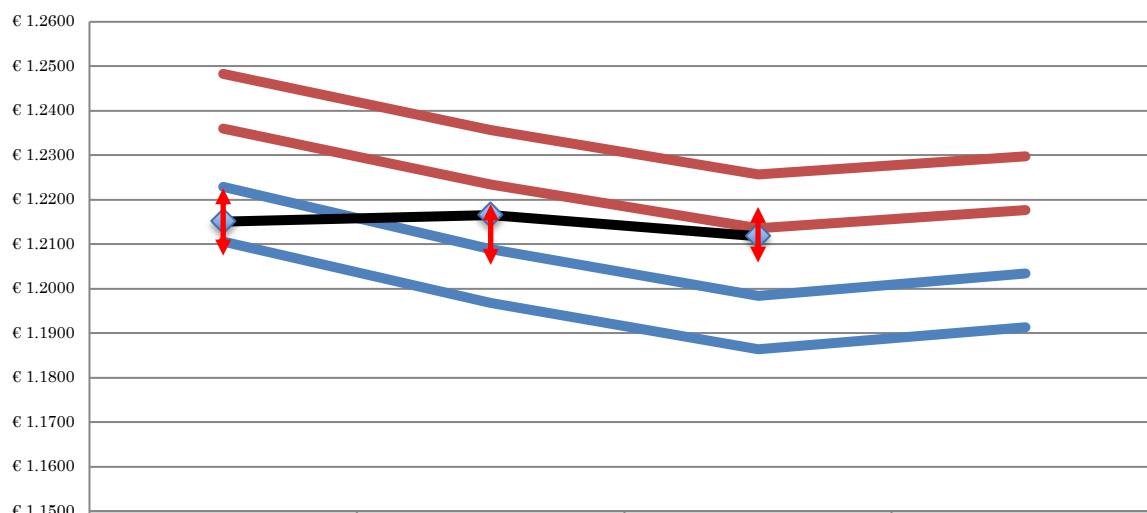
| | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 |
|--------|-------------|-------------|-------------|----------|
| — NYダウ | \$30,991.52 | \$30,996.98 | \$29,982.62 | |
| — 上値 上 | \$31,599 | \$32,014 | \$32,394 | \$31,433 |
| — 上値 下 | \$30,980 | \$31,387 | \$31,759 | \$30,817 |
| — 下値 上 | \$30,515 | \$30,532 | \$30,777 | \$30,313 |
| — 下値 下 | \$29,904 | \$29,921 | \$30,161 | \$29,706 |
| — 高値 | \$31,223.78 | \$31,272.22 | \$31,121.42 | |
| — 安値 | \$30,612.67 | \$30,865.03 | \$29,856.30 | |

ドル円



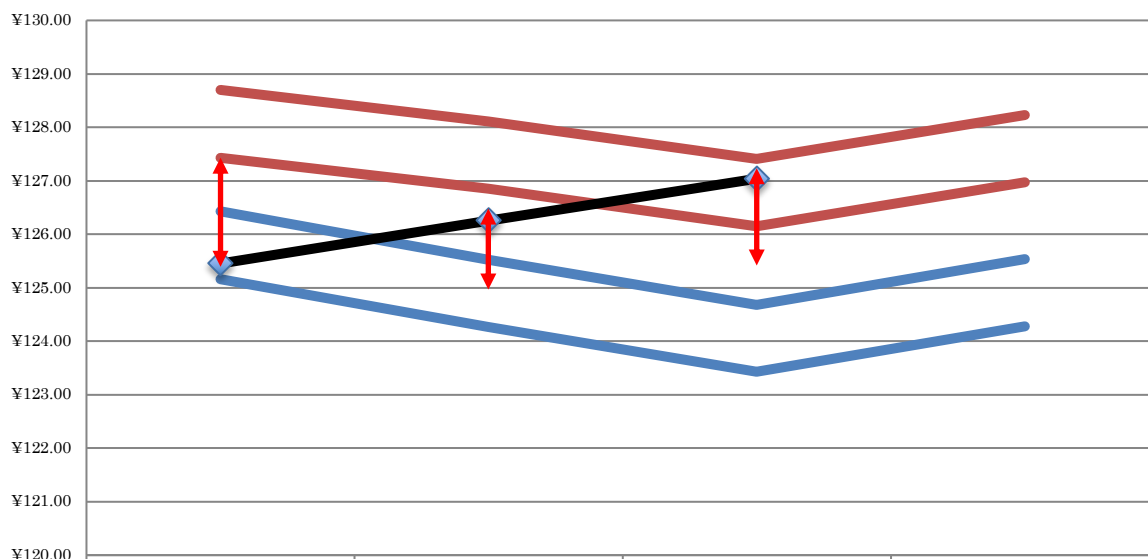
| | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 |
|------|---------|---------|---------|---------|
| 上値 上 | ¥104.69 | ¥105.53 | ¥105.62 | ¥105.57 |
| 上値 下 | ¥103.66 | ¥104.49 | ¥104.58 | ¥104.53 |
| 下値 上 | ¥102.86 | ¥103.26 | ¥103.41 | ¥103.73 |
| 下値 下 | ¥101.83 | ¥102.22 | ¥102.37 | ¥102.69 |
| ドル円 | ¥103.87 | ¥103.77 | ¥104.68 | |
| 高値 | ¥104.39 | ¥104.08 | ¥104.94 | |
| 安値 | ¥103.51 | ¥103.31 | ¥103.54 | |

ドルユーロ



| | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 |
|-------|----------|----------|----------|----------|
| 上値 上 | € 1.2483 | € 1.2356 | € 1.2257 | € 1.2298 |
| 上値 下 | € 1.2360 | € 1.2234 | € 1.2136 | € 1.2177 |
| 下値 上 | € 1.2229 | € 1.2089 | € 1.1984 | € 1.2035 |
| 下値 下 | € 1.2106 | € 1.1968 | € 1.1864 | € 1.1914 |
| ドルユーロ | € 1.2151 | € 1.2166 | € 1.2118 | |
| 高値 | € 1.2226 | € 1.2190 | € 1.2185 | |
| 安値 | € 1.2075 | € 1.2054 | € 1.2059 | |

ユーロ円

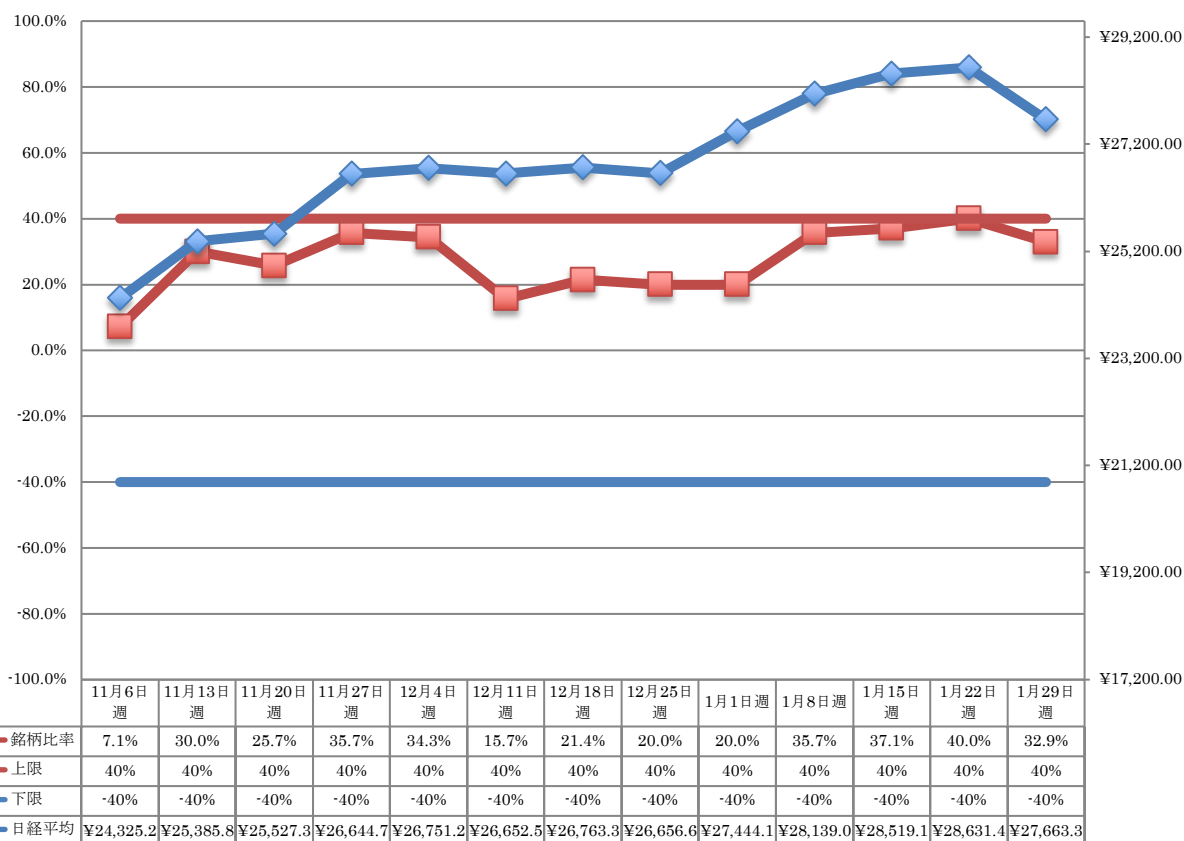


| | 1月15日週 | 1月22日週 | 1月29日週 | 2月5日週 |
|-------|---------|---------|---------|---------|
| 上値上 | ¥128.70 | ¥128.11 | ¥127.41 | ¥128.23 |
| 上値下 | ¥127.43 | ¥126.85 | ¥126.15 | ¥126.97 |
| 下値上 | ¥126.43 | ¥125.53 | ¥124.68 | ¥125.54 |
| 下値下 | ¥125.16 | ¥124.27 | ¥123.43 | ¥124.28 |
| ドルユーロ | ¥125.45 | ¥126.26 | ¥127.04 | |
| 高値 | ¥127.43 | ¥126.49 | ¥127.24 | |
| 安値 | ¥125.39 | ¥124.97 | ¥125.42 | |

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%と25週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%、1月22日週+40.0%に3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、今週の急落調整局面が継続するのか、もしくは再度、上限ゾーンを継続して突破するような上昇局面が近未来に表れるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。